

様式第7号（第4-4-(1)関係）

第3回 庵原川水系・波多打川水系流域委員会 会議録（案）

日 時	平成26年3月19日（水） 10時00分から11時45分まで
場 所	静岡総合庁舎7階第8会議室（静岡市駿河区有明町2-20）
出席者 職・指名	会 長 田中博通（東海大学教授） 委 員 板井隆彦（NPO法人静岡県自然史博物館ネットワーク理事） 委 員 春澤克治（静岡県中部農林事務所農山村整備部技監） 委 員 中野暁佳（庵原地区連合自治会長） 委 員 山西一夫（袖師地区連合自治会長） 委 員 山本克也（静岡市副市長）〔代理：山田敏夫（静岡市土木部長）〕 事務局 静岡土木事務所（所長、技監、企画検査課長、工事第2課長ほか）
議 題	1 第2回流域委員会の意見と対応について 2 庵原川水系河川整備計画（原案）について 3 波多打川水系河川整備計画（原案）について 4 今後のスケジュールについて
配布資料	議事次第 資料-1 ・委員出席者名簿 ・委員会座席配置図 ・「庵原川水系・波多打川水系流域委員会」設立趣意書 ・「庵原川水系・波多打川水系流域委員会」設置要領 ・「庵原川水系・波多打川水系流域委員会」傍聴要領 資料-2 ・第2回流域委員会の意見と対応について 資料-3 ・庵原川水系河川整備計画（原案）について 資料-4 ・波多打川水系河川整備計画（原案）について 資料-5 ・今後のスケジュールについて 参考資料 ・河川環境情報図

1 審議事項

- (1) 第2回流域委員会の意見と対応について
- (2) 庵原川水系河川整備計画（原案）について
- (3) 波多打川水系河川整備計画（原案）について
- (4) 今後のスケジュールについて

2 議事内容

(土木事務所長：開会挨拶)

- ・ 近年の河川整備においては、治水、利水、環境の3点について、調和のとれた川づくりを行なうことが求められている。とりわけ県が管理する二級水系は、地域住民の方々と深く関わっていることから、治水のみならず、自然環境の保全や、まちづくりとの整合に加え、河川を利用する際の安全管理など、幅広い分野で総合的な調整が必要となっている。こうした状況を踏まえ、庵原川水系と波多打川水系において、昨年3月6日に本委員会を設立し、これまで2回の委員会を開催しているところである。
- ・ 第1回委員会では、現地視察とあわせ、流域と河川の概要、及び河川の現状と課題について、昨年10月29日の第2回委員会では、津波対策とJR橋梁の改修について、治水・利水・環境に関わるさまざまな角度から貴重なご意見をいただいた。
- ・ 本日は、河川管理者としてとりまとめた、庵原川水系と波多打川水系の河川整備計画の原案について、事務局より説明する。
- ・ 委員の皆様には、それぞれのお立場から、忌憚のないご意見をいただきたい。

(委員長：開会挨拶)

- ・ 河川整備計画は、エネルギー基本計画もしかり、第1回の地球サミット、リオ宣言、すなわちアジェンダ21であり、いわゆる持続可能という40項からできており、それにより世界は動いている。
- ・ 日本もさまざまな法案ができ、男女の雇用機会均等法、情報公開条例ももちろんである。それに沿って世界が批准したということで、多くの元首が参加したサミットであった。我が国からは、竹下登総理が出席した。すばらしい条項になっている。
- ・ それで本来動くわけであって、要は、この河川整備計画といえども、やはり持続可能性というのが非常に求められ、本当に年配の方々には申しわけないが、次の世代のことを考えて、次の世代に何を残すべきか、どうあるべきかということで議論していくべきである。そういう観点が様々な分野の決定事項にものすごく欠如している部分が見受けられる。
- ・ 整備計画といえども、やはり主体は、そこに生活し、暮らしている、いわゆる住民の方々が主体であることは間違いないので、忌憚なく、いっぱい議論をしていただき、意見を出していただきたいと思う。

(1) 第2回流域委員会の意見と対応について

[事務局から、資料-2により説明]

(委員)

- ・ 1ページ目の、JR橋梁の改修についての説明があったんですが、市の橋梁の補強の担当の方に説明をいただいた。工事方法について、一応現段階までは問題がないと思ったが、工事終了後、流路を復旧する際に土砂移動を行なわなければならないので、その時期を工期の中でできるだけ遅くするようにお願いした。

(2) 庵原川水系河川整備計画(原案)、波多打川水系河川整備計画(原案)について

[事務局から、資料-3、4により説明]

(委員)

- ・ 庵原川でいうと、21ページに写真がありますが、カワヨシノボリというのがあり、その下にヒナハゼというのがある。まず、カワヨシノボリは、なぜこれがここに出てきたか。例えば、この河川情報図・「参考資料図」と書いてあるものを見ると、どこにも記録されていない。これは庵原川でも波多打川でも記録されていないようなので、なぜここへ登場してきたかがよくわからない。この写真そのものも、よく見ると尾っぽのところに、縦縞がありそうである。これは多分シマヨシノボリの間違い写真だと思う。もともとカワヨシノボリは、この両河川にいないはずなので、もしそうであれば、これは削除した表と図をつくっていただきたい。
- ・ それからもう1つ、ヒナハゼ。これは両河川とも河口付近にはたくさんいる種類であるが、この写真はヒナハゼではなくて、ゴクラクハゼのごく若い幼魚であろうと思う。ヒナハゼもいるはずなので、写真を差し替えていただきたい。
- ・ それから、参考資料図の説明図について、例えば庵原川では6ページのところに、広く黄色で囲まれた中に魚類の名前が書かれている。これは恐らく、調査されたけれども場所がわからないという情報ではないかと思うが、そういった説明が、この両河川ともない。ほかの黄色い点はポイントが示してあり、「ここで記録されています」というのがわかるが、この両方とも何かわからないので、その辺りの説明をつけていただきたい。

- ・ 意見として、庵原川でも波多打川でも共通していることがある。1つは、河川の整備の基本理念と基本方針というものをずっとたどっていくと、最後のところのごく一部に、庵原川には27ページに「多自然川づくりを推進」という文言が出ている。これは、ごく一部の河川工事の目的として書かれているが、残念ながら波多打川にはその文言がない。
- ・ もう1つ、全部をこの多自然川づくりでやれということは、この2つの川では難しいので、「多自然川づくりの考え方に基づいて河川整備をやっていく」ということで記述していただきたい。庵原川でいうと23ページから24ページの「河川整備の基本理念と基本方針」というところに、「多自然川づくりの考え方に基づいて進めていく」というような文言があると、全体的にこの「多自然川づくりをよく考えている」という示し方になると思う。庵原川で書かれているように、ごく一部に書かれているようでは、少し物足りないと思う。
- ・ 河川の整備と保全を地域との関係で考えていくと、河川の景観については、護岸あるいは落差工によって、かなり人工的になっており、地域と分断されている部分があると思う。やむを得ない部分もあるが、山についている部分では、河川整備計画の原案の中にも多少盛り込まれてはいるが、流域との一体化というか、生物の行き来ができるような、いわゆるエコトーンとしての連続性について、もう少し、どのようにして連続性を維持するのかということを書き添えて欲しいと思う。
- ・ 川の上下の連続性が断たれているという部分も具体的な記述がなく、「連続性を回復する」というふうに書かれているだけであり、できれば「不必要な横断工作物は取る」とか、あるいは取れない場合でも、魚を上下させるような魚道のようなものを考えるというのをどこかにつけ加えていただくと、この川では、ニホンウナギとか、あるいはアユとかというものも重要な魚種になっているので、そういう配慮があると、この整備計画も、もっと環境に配慮されたものになってくると思う。

(委員長)

- ・ 写真のカワヨシノボリがシマヨシノボリではないか、ヒナハゼはゴクラクハゼの幼魚ではないかという点について、確認していただきたい。

(事務局)

- ・ 魚類調査については、もう一度調査資料を再度確認させていただいて、修正していきたいと思っている。

(委員長)

- ・ それと同時に、この環境情報図の観測ポイントの点も確認していただきたい。あと、先ほどの委員のお話の中にあつたように、その理念というのは、やはりきちっとすることが大事だと思うので、そこをチェックしていただきたい。
- ・ それと、最後にお話されていた河川の一体化という表現を使っていましたが、連続性の観点は非常に重要な点である。例えば河川工作物。不必要なものであれば、いつまでもあるのはおかしい。そういったことも含めれば、やはり連続性というのは非常に大事なことで、そういったことを配慮しなければと思う。

(事務局)

- ・ 今お話の中で言われたように、基本理念の多自然川づくりを追加したり、流域との連続性の部分を、もう少し具体的に書いていきたいと思っている。

(委員)

- ・ 今、委員からいろいろ魚の生息について触れましたが、我々も会議のあるたびにそういう環境美化についての話をさせていただいた。ところが今、3・11から防災対策、津波対策ばかりが先行しているから、非常にやりづらく、「人命が大事か、魚が大事か」と言われてしまうと、非常に皆さんに説明がしづらい状況が続いている。
- ・ そういう中で、私どもが今やっているのは、「子供たちの勉強の場だよ」という言い方で、子供たちが庵原川、波多打川で、エビ・ガニ等を捕まえる、昔我々がやったようなことを奨励しながらやっている。どうしても「魚より人間が大事」という話になりがちであるため、そこを何とかクリアしたいために、一生懸命やっているが、川というものの体制に難しさがあるというのが我々が今感じているところである。何かいい、それをクリアできる案件があれば教えていただければありがたい。
- ・ もちろん我々も、草刈りをしたりしますが、庵原川の下流のほうでは、「中州を外せ」というようなご意見も多々ありますが、やはり中州がなくなると、魚、カニ、エビが棲まなくなり、下流へ目を向けるとシロウオがおり、それを我々は大事にしていかなければならない。イトウナギ等々も下流では上がってくる状況にありますので、非常に川もきれいになっているということであり、庵原川、波多打川はずばらしい川だということが、委員のお話で、本当に認識させられた。
- ・ それを踏まえて今一生懸命やっているが、どうしても防災対策が浮上してしまうものですから、その辺が我々として今厳しいと感じられるところである。

(委員長)

- ・ 委員がおっしゃったように、生物か人命かとよく言う。どうしてそういう議論になってしまうのかわからない。両方大事であり、そこが最初の挨拶で言ったところの人間の愚かさで、結局地球温暖化の現象により、生物がいなくなってくる。CO2が今は400ppmだが、2050年に500~550ppmに進行し、陸上動植物の大体15~37%が絶滅してしまう。いわゆるそれが「不都合な真実」になってしまう。
- ・ 川も全く同じで、委員が言うとおりに、魚がいなくなったらゆくゆくは人間もいなくなる。絶滅危惧種である。そういう認識がものすごく欠如している。そういう中で、「コンクリートか人か」とか、いろいろな議論がありましたが、両方大事である。そこら辺をしっかりと踏まえてやれば、的確な回答が出るだろうし、きちんとしたものになっていくと思う。本当に貴重な意見ありがとうございます。そのとおり頑張っていたらと、自信を持ってやっていただければと思う。

(委員)

- ・ ただいま委員から、多自然川づくりについてお話がありましたが、私も非常に興味を持ち、庵原小学校の子供たちも環境学習ということで庵原川へ降りて生態の勉強をしている。全流域を多自然川づくりということで考えても、やはり無理があるのではないかと思います。できたら範囲を決めて、多自然川づくりをやってもらい、子供たちがそこへ降りて、いつでも川遊び、あるいはそういった生態系の勉強ができるような区域を設けてほしいと考えている。特に波多打川、それから山切川は、一年中水が切れることなく、結構きれいな水が流れているので、非常に適していると思う。
- ・ 庵原川も、庵原小学校からの下流が、夏から冬にかけて水が枯れてしまうが、それより上流の伊佐布から金谷方面にかけては非常にきれいな水が流れてきているということで、ぜひそういった区域を決めて子供たちが降りていけるような自然な川づくりをしてほしいと考えている。

(委員長)

- ・ いわゆる学習できたりするのは、親水護岸的な発想だと思うが、一般に多自然というと、何かある一部と見てしまうが、全体的ないわゆる多自然川づくりということであり、それと学習できる、川に接せられるようなものと思うがいかがか。やはり川に接しないと川を理解してくれないし、またそういう大人になってしまう。だから、小さいときから川に接していれば、どういう川があるか、生物はどういうもの

がいるかということを理解し、いい人間、いい大人になるのではないか。

(委員)

- ・ J R の橋梁について皆様にご意見をいただき、県・国のほうに我々も行って説明をしてきている。二十数年ぐらい、そのままの状況が続いているが、この原案の中に 3 案を出していただいております、この 3 案とも簡単なものではなく、非常に難しい。特に短所のほうを見るとわかるが、やはり第 2 案、第 3 案になると、用地買収を非常に広く求められる状況であり、また第 1 案のほうの、現状の列車運行ダイヤまでいいが、やはりその辺の確保というのが難しいとなると、この 3 案とも非常に難しい工事という印象を受ける。何とかしてほしいという意味でいくと、第 1 案で課題をクリアしていただいで、具体的工事を早急にしていただきたい。
- ・ それはなぜかという、前にも言われたように、上から物が流れてくると、必ずそこで止まるというような状況がまだ続いている。特に最近洪水になると、丸太が流れてきてそこへ止まってしまうため、どうしても水かさがそこで増えてしまうという状況が続いている。なぜあそこだけをという、あの西側が清水区で一番低いところであり、標高 2 m しかない状況で、水が清水駅のほうまで行くというようなことが前々から叫ばれていた。今は何もないからいいが、これが橋が倒れて、J R 東海道線が通れないということになると、非常に被害が大きくなると思うので、ぜひクリアしていただくようお願いをしたい。
- ・ なかなかお金もかかることなので難しい状況ですが、原案として載せていただいただけでも我々としてはありがたいと思っている。何十年も、東京、名古屋と、この J R のことでいつも行ってくるが、なかなか説明だけで終わってきたものですから、委員の皆さんからもお叱りを受けている状況で、今一生懸命頑張っているところであり、その辺を加味して、よろしくをお願いをしたい。

(事務局)

- ・ 河川改修について、今までは主に山切川のほうをやってきたが、いよいよ山切川のほうも改修が終わりに近づいており、それとこの流域委員会を立ち上げたことや、地元の方から署名もいただいたということもあり、今年度 2 回ほど、名古屋の J R の本社のほうに伺って協議を再開している。
- ・ 具体的な改修方法については、今回示させていただいた 3 案について、いろんなメリット、デメリットがある。そのあたりを調整して、何とか改修する方向で調整していきたいと思っている。

(委員長)

- ・ 引き続き努力して、住民の方は、20年も心配されているということなので、ぜひ整備計画の中で、少し具体的なものを、完成版のときに載せられるといいと思う。これは、相手もあるので結構大変かと思う。また、実際橋梁改修になると予算も必要になる。この5分の1確率規模の計画の中で、改修はどうしても必要になってくると思うので、皆さん努力していただければと思う。

(委員)

- ・ 庵原川でも波多打川のところでも、同じように歴史・文化があり、歴史・文化の説明で出典が書かれている。庵原川では「いほはらの文化展というのによると」と。それからもう1つ、波多打川では「ふるさとの道によると」というのがあるが、この文献の出典がどこにあるのかが、どこにも示されていないようなので、もしそうであれば、この後ろに簡単にでも、出典を書き加えておいていただければと思う。

(委員長)

- ・ そうすると、より説得力があるかと思います。よろしくお願ひしたい。

(委員)

- ・ 庵原川の19ページですが、水質のところ、20ページのアンケートについて、4割が「汚れている」と表記されているが、グラフを見ると、同じぐらいの割合で「どちらかといえばきれいだ」「きれいだ」と言っている。「汚れている」ほうを取り上げたということは、ここで問題提起をしたいということか。
- ・ 24ページの表3-1で「起点・起点」となっている。これは「起点・終点」と思う。

(事務局)

- ・ これは間違いであり、修正する。

(委員)

- ・ 28ページの図の4-1について、「3k000」と書いてあるが、我々は「3km」と大体読めるが、これは「3.00km」という表示にしないとわかりにくい。

(委員長)

- ・ 例えば「1k500」は、「1.5km」ということ。
- ・ BODが3とか1といえば、かなりきれいだが、アンケートによると「汚れている」とある。その汚れというのは何か。

(委員)

- ・ かなりきれいになっていると思っていた。

- ・ いったいどういう形でアンケートを取られたのか。

(委員長)

- ・ このBODの数字自体というのは、年平均とっているもので、1回の測定だけでなく、何回か取ったものの平均値だと思う。水質はBODだけが指標ではないが、一般的に河川の水質基準からいって、大腸菌や窒素、リンとかを調べない限りはBODで大体評価している。
- ・ 普通いろんな文書を見ると、BODが1とか3という水質はいい方になるが、「汚れている」というアンケート結果が出てくるとどうなのか。アンケートの取った時期とか、もし汚れているということに、何か補足があれば教えていただきたい。

(事務局)

- ・ アンケートは、平成22年の5月に、住民アンケートという形で調査している。基本的に、その当時の自治会長さんをお願いしてアンケートを取らせていただいている。

(委員長)

- ・ そのアンケートの母数は、幾つぐらいか。

(事務局)

- ・ 数字としては1,000弱である。

(委員長)

- ・ 1,000弱ならかなりのデータである。「汚れている」というのはそのうちの4割だとするとそれもかなりの数である。
- ・ 最近のデータなので、そんな古くない。

(事務局)

- ・ 河川整備計画を策定するに当たって、どこの川についても全部アンケート調査をやっている。「川の現在の水質についてどう思うか」という質問をいつもさせてもらっている。この庵原川や波多打川に限らずに、水質のデータを見ると、BODの値が、例えばCタイプの5であったり、Bタイプの3とかの基準をちゃんとクリアしているが、アンケートの回答としては「どちらかといえば汚れている」とか、そういった回答が非常に多くなっていて、我々としては、アンケートから推察すると、地域住民の方は、より一層きれいな川を望んでいるんだなと感じている。

- ・ 河川整備計画の中でも、現状は基準をクリアしているが、より一層美しい川、きれいな川をというところを目標として、河川の保全等に努めていきたいという意味合いも込めている。今回も、先ほど言った、「どちらかといえば汚れている」というところを、少し悪目にする形で評価をさせていただいている。

(委員)

- ・ 実際の水質と住民の方々の考える水質とはちょっとニュアンスが違う。BOD、あるいはその他の重金属等、いろいろなものが含まれている水質ではなくて、ごみとか、水質では測れないような汚れ、そういうものを住民の方々は感じておられる訳であり、ビニールごみが多い、あるいは空き缶が多いというものも水の汚れに含めてしまうと、こういう印象になると思う。だから、感覚的にはこれは正しいが、水質の数字とは合わないというところで判断されればいいと思う。

(委員)

- ・ 見た目で、「ああ、汚れているな」とか、土砂がたまって草が生えていたり、そういうところを見て、「ああ、汚れているな」という印象を受けていると思う。

(委員長)

- ・ 川全般を見て、確かにどの川も今、空き缶があったり、ビニールの袋があったり、発砲スチロールがあったり、何か「汚い」と見えてしまう。だから、そういうものも含まれた意味なのかもしれない。

(委員)

- ・ だけど庵原川は、中学生が年間2回ぐらい掃除しており、きれいである。

(委員長)

- ・ しかし、事務局の考え方もある。アンケートは無視できない。だから、そう書いたアンケートを反映した上で、ここに書いてある「今後とも水環境の保全改善となることを求められている」で、ここで「さらにそれをきれいにしていこう」ということで、いいのではないか。アンケートの結果を無視する訳にいかないと思う。

(委員)

- ・ 資料4の波多打川の16ページの下の写真ですが、真ん中の「お日待ちフェスティバル」について、「茂畑地区」と書いてあるが、これは広瀬地区である。
- ・ 右側のどんど焼きのほうが茂畑地区である。地区が入れ替わっているので訂正をして欲しい。

(委員長)

- ・ 的確にいろいろと説明していただいたが、後ろに文章化された原案が載っている。次の議題でスケジュールの話があるかと思うが、今ここで勉強してもいいが、その時期までに持ち帰っていただいて、読んだ際に「ここはこうしたほうがいいんじゃないか」とか、「ここ、間違っていますよ」というところを重箱の隅をつつくような形で見ていただいて、何かご意見がありましたら、事務局のほうに連絡して欲しい。

(3) 今後のスケジュールについて

[事務局から、資料－5により説明]

(事務局)

- ・ 第4回の委員会について、次回になりますが、一応夏前ごろを予定している。

(委員長)

- ・ 夏前というと、6月から7月ということになる。まだ今3月の中旬ぐらいなので、2カ月ぐらいはあるので、内容を見ていただいて、ご意見ありましたら、事務局に連絡していただければと思う。
- ・ 今日、民間の方々や委員の皆さん方から貴重な意見をいただいた。的確な修正意見もあった。そういうことで、こういったものを次回の第4回には反映していただいて、ある意味では、最終とまでは言わないけれど、原案のバージョン2でまた審議したいと思う。
- ・ 特に質問がなければ、以上をもって本日の議事を終了する。

(事務局：閉会挨拶)